

2026年度 法科大学院

第4期入学試験問題

2時限

民法

(論文集)

試験時間 50分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民法]

次の文章を読んで、下記の（１）および（２）に答えなさい。

A（24歳）は、B社の従業員である。Aは、B社の社用車を自ら運転し、営業回りをしている途中、連日の残業の疲れで居眠りをしてしまい、赤信号を無視して横断歩道に進入し、横断歩道を歩いていたCに接触し、けがをさせた。Cの治療には、30万円かかったものとする。

- （１） この場合に、Cは、誰に対して治療費30万円の支払を請求することができるかを検討しなさい。
- （２） 仮にAがCに治療費30万円の支払をした場合に、（ア）使用者責任は、報償責任または危険責任の考え方から、被用者の責任を使用者が代わって負担するものであると理解したとき、（イ）使用者責任は、使用者自らの責任を規定したものであると理解したとき、それぞれの場合について、Aは、支払った30万円をB社に対して求償することができるかを検討しなさい。